

ネギ水耕栽培での硝酸イオン濃度測定結果について

- 1 測定日 平成 17 年 4 月 7 日
- 2 測定機器 RQ flex plus(関東科学)

3 測定結果

(1) Si 処理による葉内硝酸イオン濃度

水耕ネギ栽培における Si 処理が対照区と比較し優位差が認められた。Si 添加で葉内硝酸イオン濃度対照区と比較し 25%減少した。

(2) 部位による硝酸イオン濃度の変化

コマツナ等は葉柄が葉身に比べ 1.5~2.0 倍の含有量であるが、ネギについて部位毎に計測した結果、葉部が葉鞘基部より多い傾向であった。

(3) 生育・品質について

Si 処理区が地上部重量で約 30%、草丈で約 10% 程度促進された。また、品質については、Si 区が茎は太く、やや硬い傾向であった。硝酸測定時にカットした時は、粘りがあり、香りも強く、高品質と考察された。根も太い状況であった。

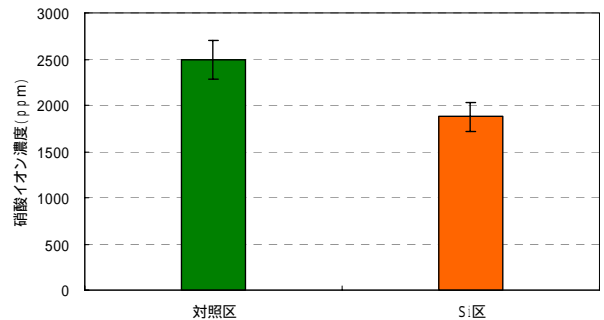


図 1 Si 処理による硝酸イオン濃度

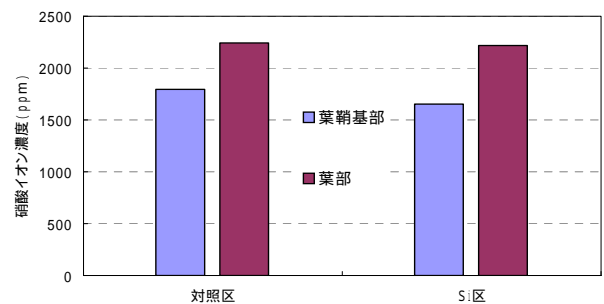


図 1 各部位での硝酸イオン濃度



Si 区

対照区

Si 区

対照区

表 1 各部位における硝酸イオン濃度 (ppm)

区分	硝酸イオン濃度	葉鞘基部	葉部
対照区	2493.3 ± 209.97	1800	2240
Si 区	1873.3 ± 163.57	1660	2220

表 2 生育状況

区分	草丈 (cm)	重量 (g)	
		10株当たり	1株当たり
対照区	55 ~ 60	71.71	7.2
Si 区	60 ~ 64	106.08	10.6

